

「課題解決のためのアイデア」集

～第2回 居場所サミット in 神戸より～

(2017年8月27日実施)

【ヒト】※①～④グループ

■課題1：もっと多くの人に来てもらいたい。利用者を増やすアイデアは？

<プログラム>

- ・ お弁当を持参してもらおう昼食会。
- ・ 皆で歌う（ギター演奏だと生カラオケができる）。
- ・ プログラムのネーミングは大事。「子ども〇〇」など子ども対象のプログラムも良い。
- ・ 夏場は、涼しくなるイベントが良い（流しそうめん、怪談話など）。
- ・ 多様な層と交流したい。参加者の年齢層が偏らないように工夫が必要。

<広報の工夫>

- ・ コープの掲示板を活用する。
- ・ 地域やマンションの掲示板を活用する。
- ・ ちらしをどこに置くか工夫が必要（調剤薬局や図書館は効果大）。
- ・ マンションや団地は自治会に加入していない場合が多いので、ポスティングする。
- ・ SNSを活用（子どもが高齢の親に伝えるなど）。SNSが得意な若者を仲間にする。
- ・ ハブになるところを活用し、効果的な広報をする。
- ・ CBの視点で利用者や運営者を増やすこともできる。
- ・ 診療所の食堂を居場所にするのも良い。食の力で人が集まる。
- ・ 子どもが対象の場合、校長先生や学童の先生の見学会を実施する。
- ・ 公の広報（広報こうべなど）を活用すると信頼が得られやすい。

<ネットワーク>

- ・ あんしんすこやかセンターに届けを出す（チラシと口コミ効果が期待できる）。
- ・ 社協、民生児童委員、給食会などとは情報交換しておくが良い。
- ・ 教育委員会や役所などに後援名義をとる（安心感を与えられる）。
- ・ 居場所同士が共催で何かイベントをする。これから始める人も協力しやすい。
- ・ スクールソーシャルワーカーとつながる。
- ・ 地域サークルのリーダーを呼ぶ。居心地がよければ仲間を連れて来てくれる。

<ファンづくり・魅力づくり>

- ・ ファン（リピーター）が必要。その人が知り合いを連れて来てくれる。
- ・ お誕生日を把握して、カードを出している。喜ばれる。
- ・ 利用者の得意なことを発揮できる仕組みをつくる。

- ・ 運営者が楽しんでやっている雰囲気の魅力づくりにつながる。
- ・ 利用者アンケートでどのような期待があるか把握する。
- ・ 仲良しクラブではないので、常連だけで凝り固まらないようにする。
- ・ 気持ちよく利用するためのルールを張り出す。
- ・ その場にはいない人の話をしない。
- ・ 地域のイベント情報などを置いて、誰とも話さない人も居られる工夫が要る。

■課題2：ボランティアや手伝ってくれる人を増やすには？

<募集の工夫>

- ・ 参加者を巻き込む（イベント周知時にアナウンス）。
- ・ 月1回の会報で「〇〇できる方」という具体的な文言を載せて募集する。
- ・ 役割限定しない。お客さんにしない。洗い物などやれることをやってもらう。
- ・ 「担い手」と「利用者」を分けしない。
- ・ 学生を巻き込む（多くの大学にボランティアセンターや学生支援室を設置している）。
- ・ 地域の警戒心を解く。
- ・ ギターなど演奏関係は区のボランティアセンターに問い合わせると紹介してくれる。
- ・ つなごう神戸のHPでPRする。
- ・ 社会貢献塾や居場所講座など、関心がある層に焦点を当ててアプローチする。
- ・ 利用者側から運営者側を見た時に「楽しい」が見えるようにする。
- ・ この人という人は一本釣り。
- ・ 他団体とネットワークを組み、人材交流（応援）を頼む。ただし時間がかかる。

<定着の工夫>

- ・ ボランティアにはチャレサポ講座を受けてもらうなど研修も必要。
- ・ ボランティアの人に報酬300円。
- ・ コーヒーの無料券（1カ月有効）を御礼で配った。
- ・ ボランティアが意見を言いやすい雰囲気や場を作る。
- ・ カレンダーをつくり、来れる人には名前を書いてもらい無理なく活動してもらう。
- ・ 社協や高齢福祉課だけでなく、区役所のまちづくり課にも相談すると良い。

【運営】 ※⑤～⑦グループ

■課題3：運営スタッフの意見が違うとき、どうすればいいか。

- ・ 他の居場所をすすめる。
- ・ ルールづくりをきちんとする。
- ・ 温度差がある場合は、別の日程・場所を変えて他の居場所をやってもらう。
- ・ その人のできる範囲でやってもらう。

■課題4：居場所に集う人同士のイガミ合いなしで、良い関係を保つには？

- ・ 会社での肩書は言わない。
- ・ 室内にルールを貼っておく。何かあればそのルールに戻る。
- ・ 合わない人は無理に合わせず、他の居場所を紹介する。
- ・ いがみ合いや「あの人嫌い」は2回まで（それ以上はレッドカードで退場）。

■課題5：プログラムに行き詰まったときどうするか？

- ・ 来ている人の好きなことやできることをプログラムにする。
- ・ 参加者が先生にプログラムをしながらおしゃべりをする。
- ・ プログラムを無理にせず、話をしているだけでもOKにする。
- ・ 自分たちだけでやろうとしない。他の団体やNPOと連携する。
- ・ 参加費は講師が決めて、半分を講師に、半分を居場所に入れるようにしている。
- ・ 食材提供や手作りが大変な場合、福祉施設等の御菓子を利用しては。
- ・ 市民農園との連携もできるのでは。
- ・ 多世代交流が必要。火曜・木曜は子育てカフェにしている。子どもが遊べるスペースをつくっておくと、他の曜日も来るようになって自然と多世代交流が進んだ。
- ・ 子どもとの交流に飴ちゃんをツールにする。
- ・ 駄菓子コーナーがあると子どもが来る。
- ・ 近隣の大学のボランティアサークルに声をかける。
- ・ 他の居場所を見学にいくと参考になるのでは。スタッフも参加して居場所ラリーをする
と勉強になると思う。

【場とお金】 ※⑧～⑨グループ

■課題6：初期費用や家賃など固定費のカバーは？利用料の決め方は？

- ・ 助成金はあるが3年以上の継続は大変。
- ・ バザーなど自分たちで賄っている。
- ・ フリマボックスで固定費の一部を確保。
- ・ 居場所づくり型補助が2017年度から始まったので、活用したい（年間上限5万円）。
- ・ トイレをつくりたくて、クラウドファンディングをやったら60万円集まった。目標は100万円だったが、難しかった。
- ・ 年会費と1回ごとの利用料に分けて、払ってもらっている。
- ・ プログラムのひとつで子どもの学習支援をやっているが、会員登録制をやめて利用券（200円×10枚）にしたら利用者が増えた。
- ・ 物件を購入して居場所を始めたら、所有者が代表者の場合補助金が出ない、ということがあった。活動内容で判断してほしい。

■課題7：公的な施設を利用する場合に場所代等を減免してもらえないか？

- ・ 利用率を上げるなど、費用を払わない理由が説明する必要がある。
- ・ 住民アンケートを取り、住民のニーズであることを証明する。
- ・ 地道な作業から事実を積み上げることが大事。
- ・ 「委託」ではなく「協働」という視点を共有できるかが大切。

■課題8：場の見つけ方はどうすればいいのか？

- ・ 助産院を開院しているが個人経営なので、家賃を圧迫している。空いているときに居場所にできたら。
- ・ 障害者対象のB型等の施設は夕方以降空いている。夕方以降に子どもの学習支援をしている事例がある。
- ・ シェアハウスや空き家との連携。
- ・ 常設の居場所でも毎日開いているところは少ない。時間借りでシェアできないか。
- ・ 施設のエントランス部分を借りる。
- ・ 活用したい人と活用してほしい人をマッチングする仕組みがいる。

<居場所運営者としてのマインド・心構え（全体を通じて）>

- ・ ハードルを下げてゆるく運営。
- ・ 人に求めすぎない。
- ・ リーダーがしっかりしすぎない。
- ・ 相手があることは反応をみながら対応を検討する。押し出しだけではうまくいかない。
- ・ 気持ちだけではだめ、伝えるためには説明資料も必要。
- ・ 他団体とのネットワークは時間がかかる。だが基盤をつくるためには必要不可欠。
- ・ 運営者自身が楽しむということを忘れない。わきあいあい。
- ・ 「やれる人とやれることから」が大事。
- ・ 合わない人に無理に合わせない。
- ・ 自分ひとりですべてしようと思わない。
- ・ 次へつなげるのは「根気」と「ねばり」。
- ・ 継続は力なりをモットーにがんばる。

